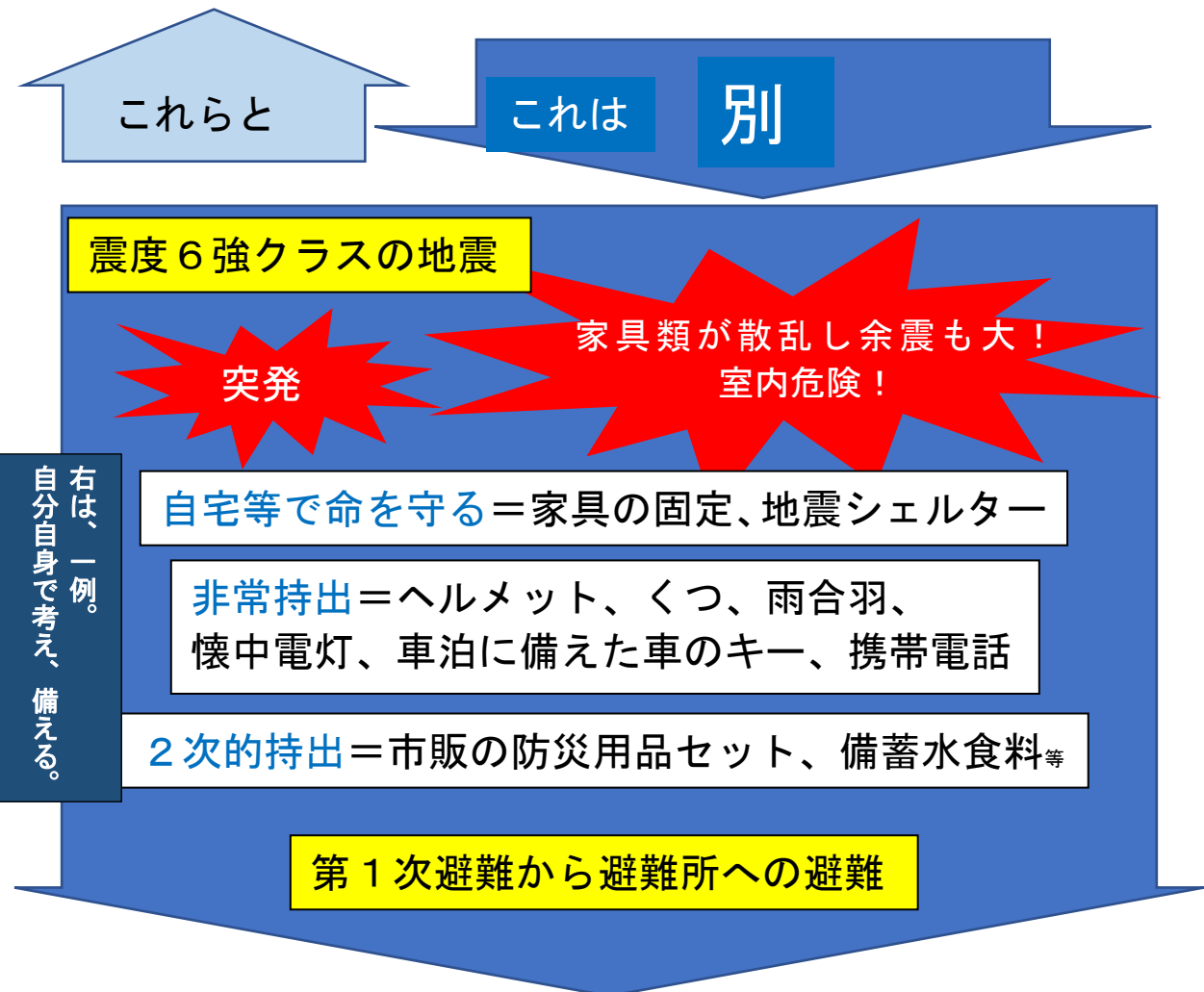


いつくるかわからない地震に備えましょう！！

土石流・崖崩れ・地滑り・竜巻・台風等 小字単位の自治会館等に避難が可能＝自治会内の電話連絡網を活用 自治会に相談したり、避難するための時間はある	開設している避難所は、 「香川県防災ナビ」等で 調べる。
床上浸水以上の洪水 避難指示が出てから避難するための時間はある	
震度5強までの地震 突発！ 自宅等で命を守る＝家具の固定 被害は少ない	



自宅は、こわくて、もどれない場合が多い

2次的持出は、あらかじめ避難所に備えておくのが避難の基本

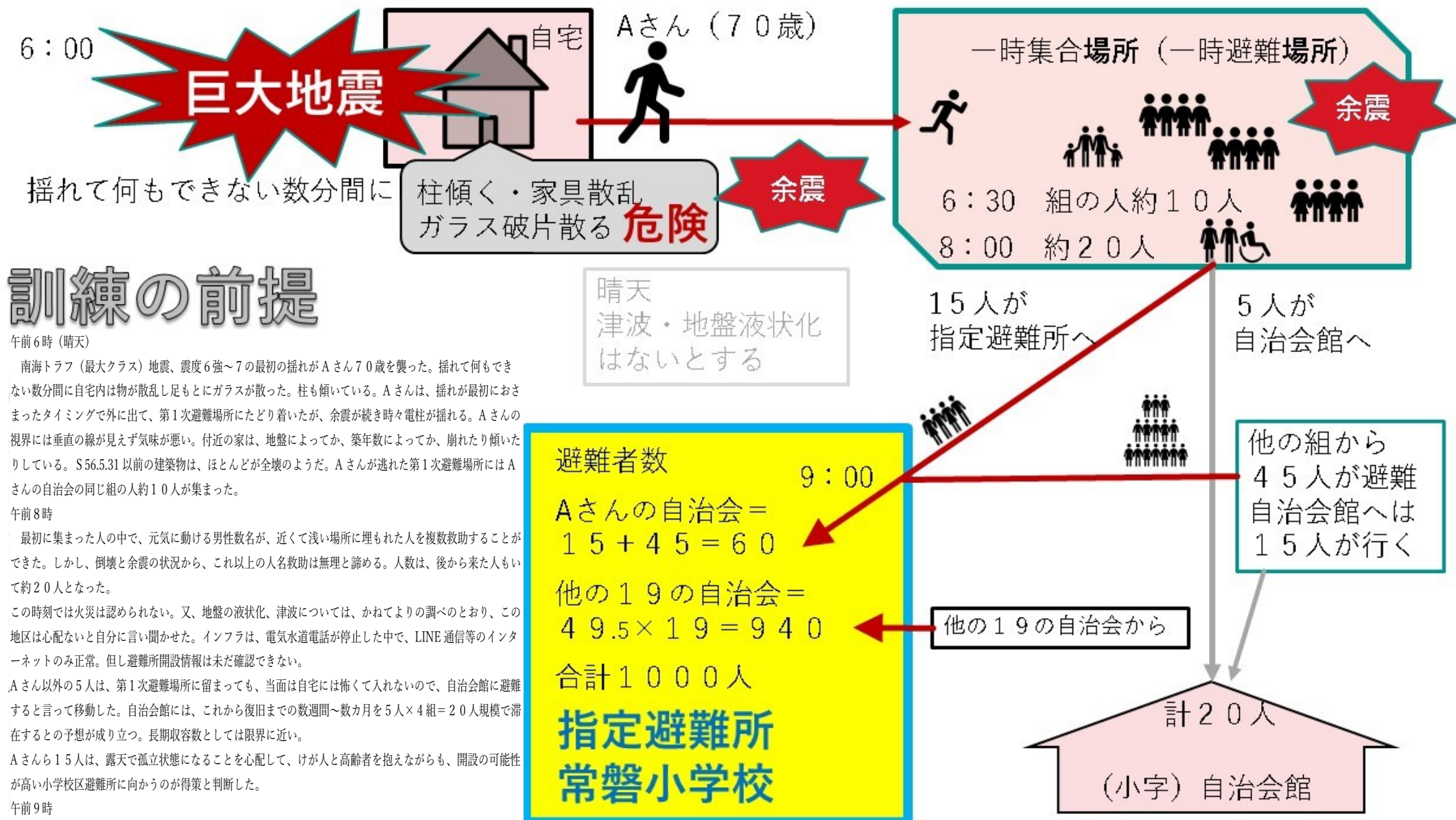
指定避難所開設訓練と整備が必要

避難所には多数の避難者が押し寄せる

収容不足の問題は、車泊、テント泊を考えておく

常磐小学校区自主防災会 会報 第4号 (ウラ面)

校区自主防災会では、避難所開設訓練の前提を下図のように設定していますが、この前提こそが、南海トラフ最大クラス発災の状況です。オモテ面の風水害等とは、切迫性も対応方法もまったく異なりますから、皆様ご自身が、ご自分に適する備えを考えておいてその時の命と健康を守りましょう。



訓練の前提

午前6時 (晴天)

南海トラフ (最大クラス) 地震、震度6強~7の最初の揺れがAさん70歳を襲った。揺れて何もできない数分間に自宅内は物が散乱し足もとにガラスが散った。柱も傾いている。Aさんは、揺れが最初におさまったタイミングで外に出て、第1次避難場所にたどり着いたが、余震が続き時々電柱が揺れる。Aさんの視界には垂直の線が見えず気味が悪い。付近の家は、地盤によってか、築年数によってか、崩れたり傾いたりしている。S56.5.31以前の建築物は、ほとんどが全壊のようだ。Aさんが逃れた第1次避難場所にはAさんの自治会の同じ組の人約10人が集まった。

午前8時

最初に集まった人の中で、元気に動ける男性数名が、近くで浅い場所に埋もれた人を複数救助することができた。しかし、倒壊と余震の状況から、これ以上の人名救助は無理と諦める。人数は、後から来た人もいて約20人となった。

この時刻では火災は認められない。又、地盤の液状化、津波については、かねてよりの調べのとおり、この地区は心配ないと自分に言い聞かせた。インフラは、電気水道電話が停止した中で、LINE通信等のインターネットのみ正常。但し避難所開設情報は未だ確認できない。

Aさん以外の5人は、第1次避難場所に留まっても、当面は自宅には怖くて入れないので、自治会館に避難すると言って移動した。自治会館には、これから復旧までの数週間~数カ月を5人×4組=20人規模で滞在するとの予想が成り立つ。長期収容数としては限界に近い。

Aさんら15人は、露地で孤立状態になることを心配して、けが人と高齢者を抱えながらも、開設の可能性が高い小学校区避難所に向かうのが得策と判断した。

午前9時

やっとの思いで常磐小学校に到着。Aさんの自治会からは、15人×4組=60人が到着し、他の19の自治会を合わせると、全体では、約1000人の避難者が到着した。

内閣府が、「南海トラフを震源とする巨大地震が、今後30年以内に70%の確率で発生する」と言って、既に数年が経過しました。皆さんには、巨大地震がどのようなものか想像できますか？ 常磐小学